

# 関係団体

# 令和7年度 全国下水道主管課長会議資料

令和7年4月24日

地方共同法人 日本下水道事業団

地方公共団体の実情に応じたソリューションの提案により、計画・設計から建設までの一体的な支援を実施

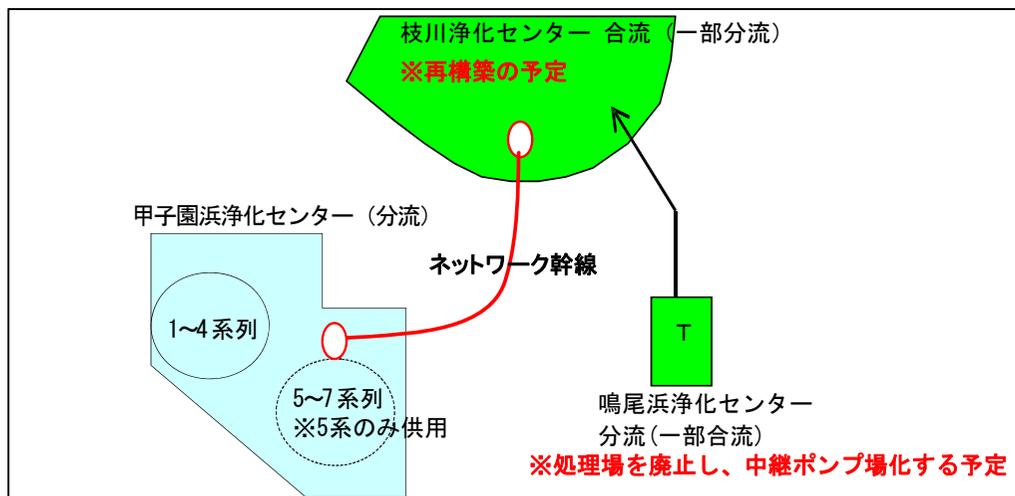
## 水処理の広域化を踏まえた大規模再構築 (西宮市枝川浄化センター再構築事業)

- 枝川浄化センター再構築事業は、処理機能を維持しながら限られた敷地での段階的な大規模再構築を予定。
- 具体的には、大規模再構築にあたり、甲子園浜浄化センターとネットワーク管の構築によるリダンダンシーの確保や鳴尾浜浄化センターを廃止して処理区の統合化。あわせて、温室効果ガス排出量の削減やカーボンニュートラルを目的に、省エネ・再エネ技術の導入を検討。

狭い処理場の再構築の際に  
新技術(膜分離活性汚泥法)の導入を提案



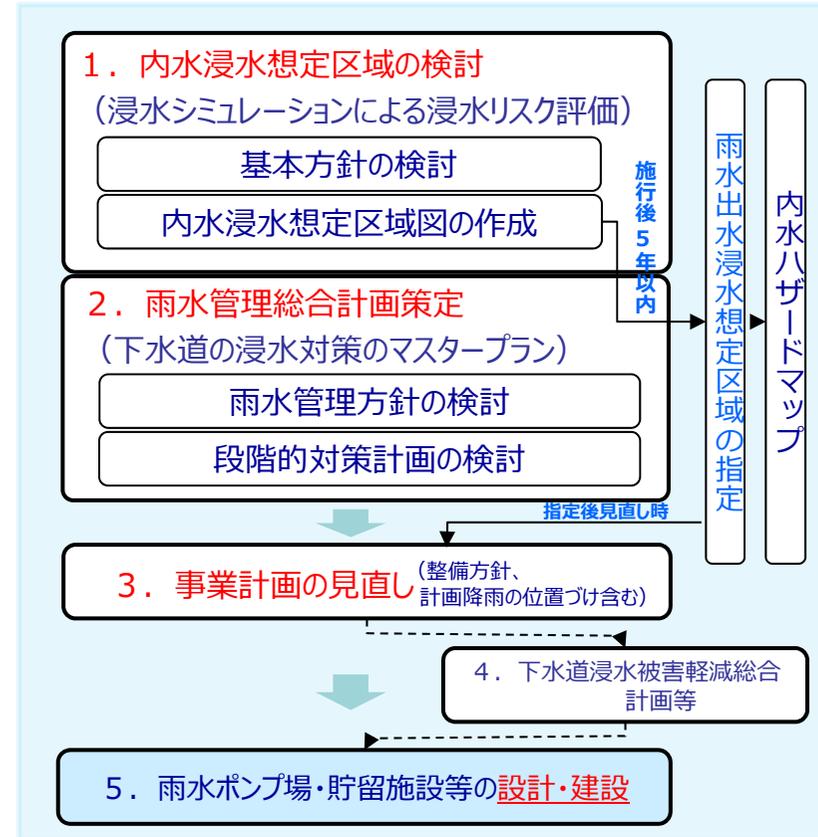
汚泥脱水施設の汚泥処分コスト削減のため、流入下水から回収した繊維状物を脱水助材として用いる新技術の導入を提案



再構築・建設工事  
受託中の処理場  
埼玉県荒川水循環センター、  
大阪市海老江下水処理場、  
西宮市枝川浄化センターなど

流域治水の推進に向け、計画・設計から建設までの一体的な支援を実施

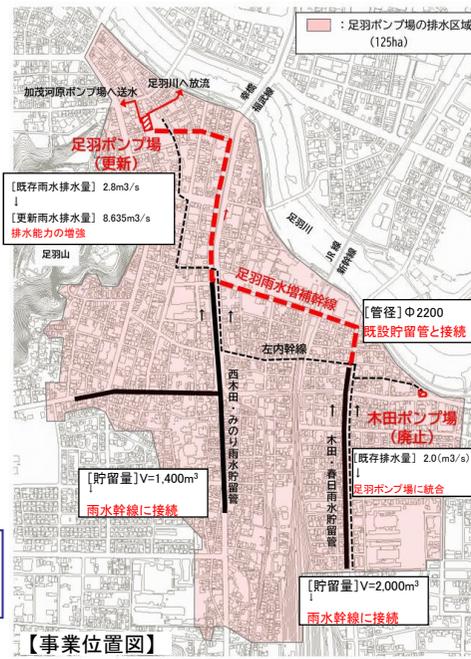
流域治水へのJSの一体的な支援



建設工事受託中の雨水ポンプ場  
小山市大行寺ポンプ場、福井市足羽ポンプ場、熊本市井芹川第8・10排水区雨水ポンプ場など

## 老朽化対策と浸水被害軽減対策を一体的に実施 (福井市<sup>あすわ</sup>足羽ポンプ場・足羽雨水増補幹線)

- 足羽ポンプ場は、昭和26年の供用開始から74年が経過し老朽化が進行。
- また、足羽ポンプ場の排水区域では、過去に大規模な浸水被害が発生。
- このため、足羽ポンプ場を更新し、現行の耐震基準に適合。
- さらに、同排水区の木田ポンプ場の廃止・統合により排水能力を向上させ、浸水被害を軽減。
- JSは設計から支援を開始。



**【事業概要】**  
ポンプ場整備：Q=約0.7m³/s (汚水)  
Q=約8.6m³/s (雨水)

**【効果】**  
雨水増補幹線の整備及びポンプ場排水能力の増強により、5年降雨確率 (43.1mm/h) に対して浸水被害を軽減する。

## ○基本方針

・国交省からの「ウォーターPPPの推進」に係る通知(R5.6.2)を踏まえ、その導入・実施を図る地方公共団体を支援。

## ○導入可能性検討等に係る支援

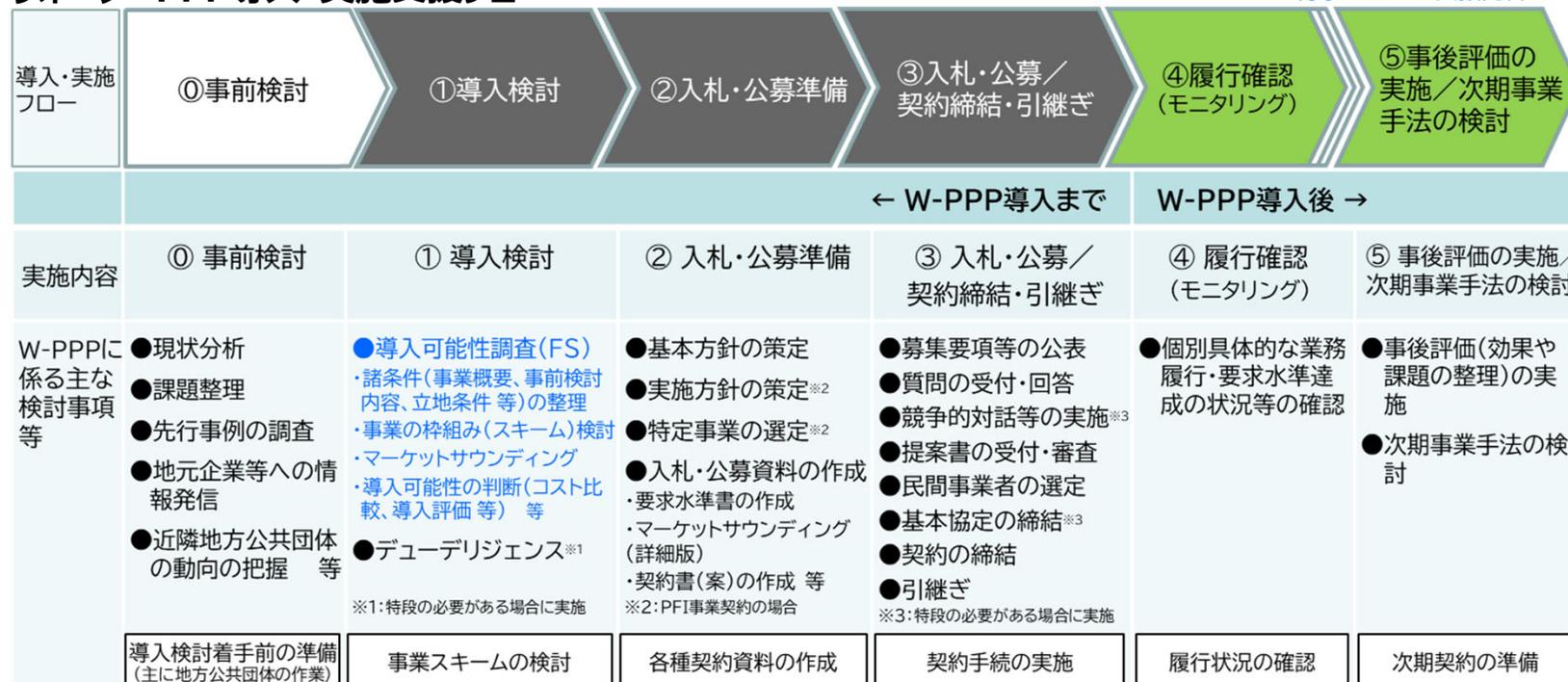
- ・導入可能性検討を実施する33案件について支援を実施(R6年度)。
- ・そのほか、国土交通省のウォーターPPPガイドライン策定検討委員会の事務局として、モデル都市支援(2案件)を実施。
- ・令和7年度についても、令和6年度からの継続案件のほか、令和7年度からの新規案件について支援を行っていく。

## ○ウォーターPPPと従来からのJS支援の関係

- ・ウォーターPPP(レベル3.5)のうち「更新実施型」の場合、当該ウォーターPPP事業に含まれる更新事業(SM計画・設計・工事)は、受託者が実施するため、当該更新事業について、原則として、JSは関与できない。
- ・「更新実施型」であっても、当該ウォーターPPP事業に含まれない更新事業は、JS委託が可能。
- ・更新事業を含まない「更新支援型」の場合は、更新に係る設計・工事はJS委託が可能。

## ウォーターPPP導入・実施支援フロー

青字:R6主な支援内容



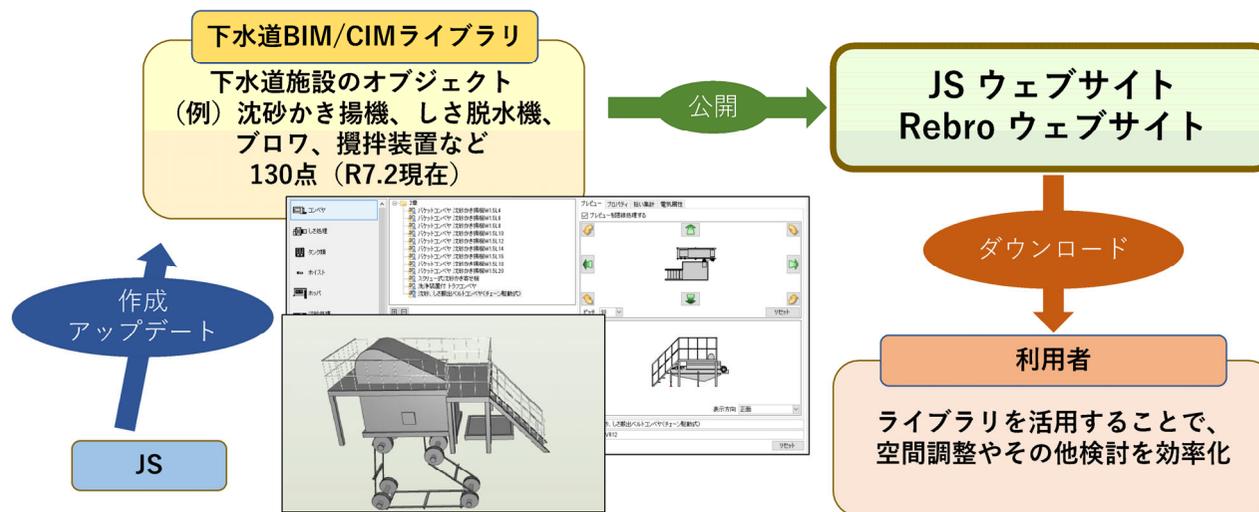
BIM/CIMの推進に向け、「下水道BIM/CIMライブラリ」を公開

○BIM/CIMモデルの活用之际、下水道事業では他事業で使用されない特有の機器や材料が多いことから、設計や施工において他事業に比べて進んでいないのが実情。

○このため、JSでは、機器や材料を3次元モデル化した「オブジェクト」の作成・収集を行い、「下水道BIM/CIMライブラリ」を構築して公開(<https://www.jswa.go.jp/dx/dx.html>)。

○今後はJS業務において作成されたオブジェクトを継続的に収集し、さらなる充実を図る。

## 下水道BIM/CIMライブラリの概要

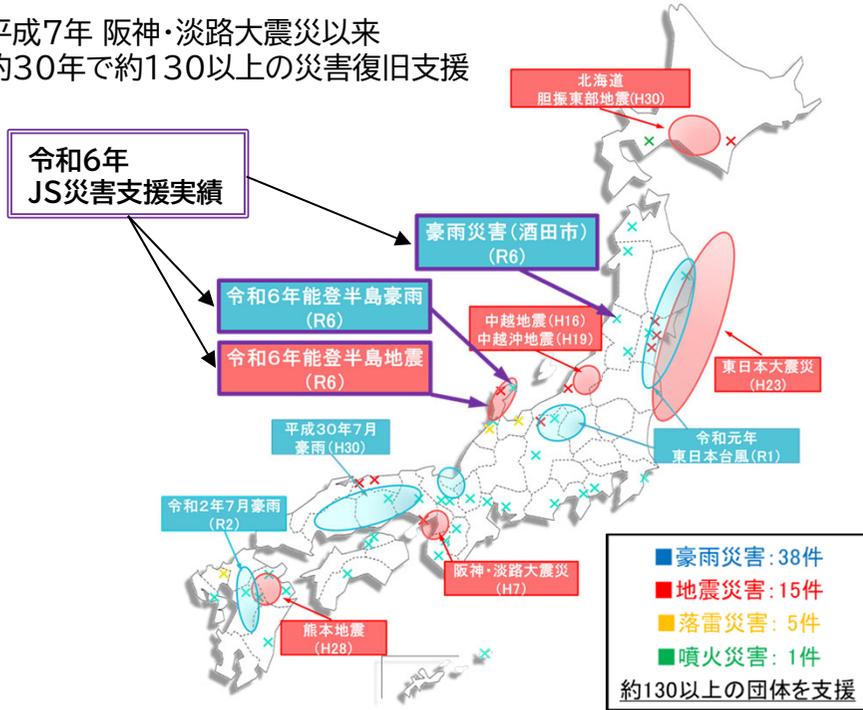


下水道BIM/CIMライブラリにより、下水道事業におけるオブジェクト作成の負担を大幅に軽減  
3次元モデル作成の作業ハードルを下げることでBIM/CIM活用を推進

## 災害支援要請に対して迅速かつ一貫した支援を実施

### 全国に及ぶ災害支援実績

平成7年 阪神・淡路大震災以来  
約30年で約130以上の災害復旧支援



### 【災害支援協定による災害復旧支援フロー】

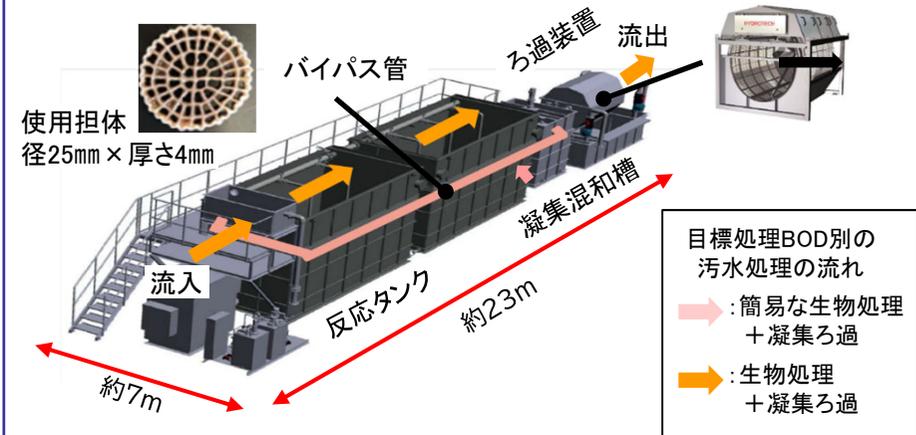


### 災害支援力の進化(R7.4運用開始)

#### 災害対策用機材を整備・保有し支援力強化

○可搬式水処理施設 移動床式生物膜法(MBBR) + 凝集ろ過法

施設	機能	処理水量 (処理人口)	流入 BOD	目標処理 BOD
可搬式水処理施設	簡易な生物処理 + 凝集ろ過	2,000 m <sup>3</sup> /d (約6,000人/日)	120 mg/L	60 mg/L
	生物処理 + 凝集ろ過	1,000 m <sup>3</sup> /d (約3,000人/日)	120 mg/L	15 mg/L以下



○排水ポンプ(高揚程)

仕様(口径・吐出量・揚程) Φ200×3.0m<sup>3</sup>/分×25m



陥没現場における人命救助にあたり、汚水の流下量低減のため  
JSは災害支援で培った「人材力」「機材力」で支援

人材力	専門家集団JS職員の派遣	機材力	災害対策用下水道機材を搬入										
<p>埼玉県からの支援要請に基づき 発災直後から下水道使用自粛解除まで 延べ20名の職員を派遣</p> <table border="1"> <tr> <td>1/28 (発災)</td> <td>埼玉県庁へ派遣 (1名)</td> </tr> <tr> <td>1/29 ~1/30</td> <td>陥没現場へ派遣 (4名)</td> </tr> <tr> <td>2/3</td> <td>排水ポンプの設置場所の 検討へ参画 (2名)</td> </tr> <tr> <td>2/4 ~2/13</td> <td>汚水流下抑制対策 八潮市内ポンプ場 (13名)</td> </tr> <tr> <td>2/12 正午</td> <td>県が下水道使用自粛を解除</td> </tr> </table>		1/28 (発災)	埼玉県庁へ派遣 (1名)	1/29 ~1/30	陥没現場へ派遣 (4名)	2/3	排水ポンプの設置場所の 検討へ参画 (2名)	2/4 ~2/13	汚水流下抑制対策 八潮市内ポンプ場 (13名)	2/12 正午	県が下水道使用自粛を解除	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #ffffcc; text-align: center;"> <p><b>JS災害支援拠点</b> 災害対策用機材を設置【R6年度】 (栃木県真岡市:JS技術開発実験センター)</p> </div> <p style="text-align: center;">要請に基づき 被災地に搬入・設置</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;">  </div> <div style="width: 45%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">八潮市内ポンプ場</p> <p>JSが保有する 排水ポンプ(高揚程)を 今回の支援で初めて運用</p> <p>排水ポンプの設置から 運転確認を短期間で完了 (2/3~2/6 4日間)</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="width: 45%;">  <p style="text-align: center;">関係機関と現地調整するJS職員</p> </div> <div style="width: 45%;">  </div> </div>	
1/28 (発災)	埼玉県庁へ派遣 (1名)												
1/29 ~1/30	陥没現場へ派遣 (4名)												
2/3	排水ポンプの設置場所の 検討へ参画 (2名)												
2/4 ~2/13	汚水流下抑制対策 八潮市内ポンプ場 (13名)												
2/12 正午	県が下水道使用自粛を解除												

# 下水道プラットフォームとして共通の基盤づくりにより 社会全体の発展に貢献（地方公共団体職員・民間技術者の育成支援）

○地方公共団体の下水道担当職員の育成を目的とし、下水道技術の向上や養成、訓練を行うことで、「第一線で活躍できる人材の育成」を図る。

## 特徴1: 充実した研修カリキュラム

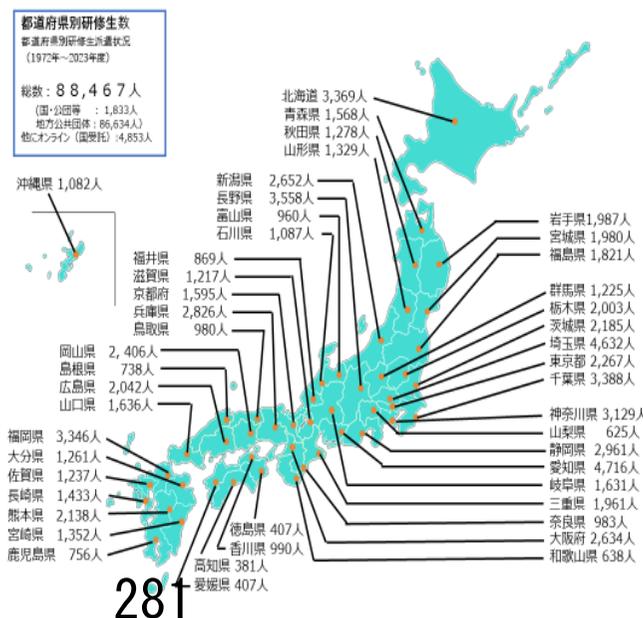
- 下水道初心者の技術力アップのため、基礎的研修は演習・実習を重視
- 国交省指定講習(管きょ設計Ⅱ、処理場設計Ⅱなど)により、下水道法第22条に定める有資格者の資格取得のために必要な経験年数を短縮
- ウォーターPPP、事業マネジメント、経営戦略など、国の新しい施策動向に迅速に対応した研修メニューを充実
- オンデマンド研修の申込通年化

## 特徴2: 個々の学習スタイル・ニーズに合わせた多様な研修スタイルを用意

- 対面集合研修 ……演習・実習・ディスカッションを重視。
- 地方研修 ……地方主要都市への出張研修。短期間、特定テーマ。
- 個別課題研修 ……わが町固有の課題解決をお手伝い。
- オンライン・オンデマンド研修 ……時間的・場所的に対面集合研修への参加が難しい方のために。



埼玉県戸田市に実習・演習施設を  
完備した専用の研修施設を整備。



○公開用ホームページ

<https://www.jswa.go.jp>

○広報パンフレット

<https://www.jswa.go.jp/company/gaiyou/pdf/mizuata.pdf>

○お問合せ先

<https://www.jswa.go.jp/information/information.html>

